

令和5年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

( 中間・最終 )

仁方中学校区 校番1 仁方中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	○主体的に学び、思考力・表現力を育てる。	考える授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師の授業への肯定的な評価は中間と大きく変化していないが、生徒の授業や学習意欲の評価は下がっている。指導する側の自己点検が必要である。</li> <li>○『自分から積極的に授業を受けています』の肯定的評価が91.1%と高い。「思考を促す発問」を意識した授業作づくりを中学校区全体で実施した成果と考えられる。</li> <li>○『毎日ノートでは、めあて、ふりかえりを意識しながら行っています』の項目が58.9%と低い。授業でも、めあてとまとめを意識していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○思考を促す発問を来年度も継続していきながら、授業の中で生徒が考える機会を増やす。</li> <li>○来年度は生活に身近な課題設定で「生活をよりよくしていこう」という視点から生徒が思考を深める授業づくりに小中で取り組んでいく。</li> <li>○年度当初の校内研修で、めあてとまとめの提示の再確認をして、教員が手本となるようにする。</li> </ul>
		基礎学力の定着と向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎学力に関わる肯定的評価は下がっている。2学期から、全国学力学習状況調査や実力試験の結果を受けて、生徒に目標を持たせて学力向上に取り組んだ。</li> <li>○特に、「読書」については、昨年度から配置された司書教諭との連携や図書部・委員会の主体的な取組を進めてきたことが有効だった。その結果、年々図書室の利用が増えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「Qubena」(学習進度に応じた個別指導用学習ソフト)を各教科・補充学習・個別学習・家庭学習で効果的に活用できるよう工夫していく。</li> <li>○学校で朝読書を充実させるとともに、図書部や委員会での活動を全生徒に周知し不読率の縮小を図る。</li> </ul>
**	○自らを律し、他人を思いやる豊かな心を育む。	自校肯定感・集団適応感の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全項目で目標を達成している。</li> <li>○2学期では合唱コンクールでの取組が特に充実して多くの生徒が充実感、達成感を感じ、自己肯定感・集団適応感の向上が図れた。</li> <li>○学校行事や生徒会活動において、集団作りを仕組んだ成果が大きいと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○これまで積み上げてきた様々な行事や活動での「よき伝統」を上級生から下級生へと繋げていくことでより充実した集団づくりを進めていきたい。</li> <li>○組織的な活動にするために、生徒指導部会での協議を計画的に行う。</li> </ul>
		規範意識の向上と豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全項目で目標を達成している。</li> <li>○「時間を意識して行動できている」と肯定的に回答した生徒が96.4%であった。特に3年生においては100%となっており、最高学年としての自覚を持った行動をとることができたと考えられる。</li> <li>○N中メソッドをより充実させていこうとする生徒会各委員会の活動の成果が上がってきている。また、ボランティア活動へも積極的に参加する生徒が増えてきた。今後も生徒が様々な活動に主体的に取り組んでいけるように、働きかけていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○呉市の学校全体が「ジェンダー平等社会・人権尊重社会の実現」を基本的な考え方として生徒指導規定の見直しを図っている。仁方中学校でも、生徒の実態に応じ、時代に即した内容となるよう見直しや改善を進めていく。</li> <li>○生徒が主体的に自分たちの学校生活をよくしていこうとする学校風土づくりの確立に向けて、さらに取組を充実させていく。</li> </ul>
*	○たくましい体を育成する。	生徒が主体的に取り組む体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ハンドボール投げは全学年男子が県平均を上回った。女子は1年生は上回ったが、2・3年は昨年よりも差が広がってしまった。</li> <li>○持久走は、1年男女と2年男子が県平均を上回った。1月の再検証では全学年男子と1年女子が9月の平均を上回った。授業や部活動で基礎的な動きを継続して取り組めるかが課題である。</li> <li>○「呉チャレンジマッチスタジアム」の「シャトルスローリレー」をクラスマッチで取り上げたが、入賞はできなかった。継続的にを行い、ハンドボール投げへのステップアップに繋げていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○次年度の体力テストにおいて、重点項目の県平均を上回ることができるように、保健体育での授業、部活動で、補強トレーニングや基礎的な体力の向上に取り組んでいきたい。</li> <li>○呉チャレンジマッチについて保健体育科や体力づくりの年間指導計画をふまえた上で、クラスマッチや保健体育の授業の中で計画的に取り組むことで、上位を目指す。</li> </ul>
		心身の健やかな発育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○NSRの運営について、月2回の「不登校等生徒支援委員会」で対象生徒の共通理解を図り支援の方向性を確認している。</li> <li>○2学期の外部講師は「がん教育」「薬物乱用防止教室」で、生徒の肯定的評価はいずれも100%だった。3学期には、自他の生命尊重や健康、障害・福祉に関連して「車いすバスケットボール(1年)」「いのちの授業(3年)」を予定している。</li> <li>○来年度も、外部講師を活用し様々な安全教育(健康面・安全面・危機管理面・情緒面)を展開していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○来年度に向けて、不登校生徒の増加(不登校生徒数の割合:令和3年度6.9%⇒令和4年度17.7%⇒令和5年度2学期末14.6%)への対応が大きな課題である。</li> <li>○「昨年度不登校だった生徒が今年度教室復帰できた」「NSRを活用しながら登校できた」といったNSR設置の成果をふまえ、来年度もNSRの運営を軸にしなが「居場所づくり」「学習活動の支援」を中心に取組を進めていく。</li> </ul>
業務改善	○教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備する。	組織的な業務改善の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己申告カエルボードを利用し、教職員のタイムマネジメント力を高め、見通しとめ切を決めた仕事の仕方を行うよう促したり、月中行事や職朝プリントでめ切目を提示したりすることで、各主任を中心に、計画的に業務を遂行するようになってきている。そのため、生徒と向き合う時間が確保されている教職員の割合が増え、目標値を達成している。一方、行事の多い時期に時間外勤務が増えており、今後も組織的な業務改善に取り組んでいく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校務支援システムの導入やタブレットの活用により、今後、更に、ペーパーレスに努める。</li> <li>○業務の効率化を図るために、各主任を中心に組織的に業務を遂行することができるよう計画的に会議等で進捗確認を行う。</li> </ul>